

## 令和7年度 市長とセットトーク意見交換要旨

開催日：令和7年11月29日（土曜日）10時30分～11時30分

開催場所： おおまち助産院

団体・グループ名： 瀬戸内 nana 赤ちゃん食堂

テーマ： 出産・子育て（助産院の取組等について、子育て支援施策について）

### ★意見交換要旨★

・幸せなお産の推進は医療費削減や健康寿命の延伸、産後鬱の減少など、瀬戸内市に多くのメリットをもたらす。また、市長が所信表明で掲げられた「子育て・教育環境の充実」に協力したい。

・瀬戸内市の保健師を通じて妊婦が助産師に気軽に相談できる機会の提供を求める。妊娠中の健康リスクやストレス、早産・流産の不安、さらには産後鬱などの課題への対応が重要と考える。

・岡山多胎サークル「おてて」は、サークルの存在を広め、多胎育児を楽しく乗り越えることを目的に活動しており、妊娠期から育児まで幅広く相談できる環境を整えるべく、自治体や医療機関に働きかけたいと考えている。瀬戸内市でも、多胎育児支援の周知や相談会の開催を検討し、地域連携を強化して助産院やサークル活動の取組の周知を行ってほしい。

・瀬戸内市の産後ケアが利用しづらいため、改善をお願いしたい。他自治体ではインターネット予約が可能である一方、瀬戸内市では複数回の対面での煩雑な手続きが必要であり、これが利用率の低下につながっている可能性がある。手続きの簡素化を進めることで、母親たちが産後ケアをより気軽に利用できる環境を整備してほしい。

（市長）

子育て支援に係る広報活動を強化し、担当課からの情報提供をもとにPRを進めたいと考えている。

また、市役所に行かずに手続きが完結する体制を目指しており、特に子育て分野においてオンライン化を進めている。瀬戸内市では、令和7年10月1日より子育てアプリの利用を開始した。紙による手続きとオンライン化を並行すると、手続きに係るコストが増えるため、若い世代が主に利用する子育て系サービスから優先的に完全オンライン化を実施したいと考えている。一度対面で説明する機会を設けた上で、以降はインターネットで手続きできる環境を整備し、利便性を高めていきたい。

・LINEから直接子育て応援サイトへ繋げるシステムを構築するのはどうか。

（市長）

LINEを活用して子育て応援サイトをより見やすくし、すべての手続きがLINEから完結できる仕組みを目指したいと考える。ただし、LINEをメインに使用する場合、未登録の市

民を排除する可能性があるため、実現には課題が伴う。慎重に検討しながら利便性向上を追求したい。

・LINEだとセキュリティの脆弱性が懸念される。

(市長)

LINEは該当手続きのサイトに誘導し、どのような手続きが可能かを分かりやすく案内する形で、使いやすい構造を構築するものとしたと考えている。いただいたご意見を参考に、前向きに進めたい。

・子育て支援のビジョンと現在取り組んでいる政策を教えてください。

・特色ある園づくりを進め、保護者が「ここに通いたい」と選べる状況を目指してほしい。

また、働きたい元気な高齢者に協力してもらおう仕組みができれば良いと思う。

(市長)

市としては、人口減少や少子高齢化による人材不足や継承者不在といった課題の深刻化を懸念している。一方で、瀬戸内市は岡山市と近いなど立地条件が良く、邑久駅や長船駅周辺では若い移住者が増加している地域もある。若年層の人口増加地域があることは、地域活性化の可能性を広げる希望につながると感じている。

現在、瀬戸内市では毎年約1,600人の転入者がいる一方で約1,400人の転出者がおり、39歳以下の若い転入者が多い。しかし、毎年約500人がお亡くなりになっているため、人口増加に至っていない。瀬戸内市の魅力である、岡山市から近いという好立地を強みとしてさらに伸ばし、人口増加を図りたいと考える。将来的には、人口増により外部企業から投資を受けられる地域になることを目指し、移住先として瀬戸内市が選ばれるよう、子育て支援政策には積極的に取り組んでいきたい。

子育て支援政策に関して、小学校給食の無償化を継続し、各方面で無償化の実現を進めていきたいと考えている。これにより、子育て世代にとって「お得でコスパの良いまち」として選ばれるような移住先を目指す。

また、邑久・長船周辺ではこども園が不足している現状を認識している。遠方の牛窓や裳掛のこども園への通園が困難で、保育園の申請をあきらめる保護者の方がおられるため、瀬戸内市の待機児童数は0となっているが、実質的な待機児童が50人いる。実質的な待機児童数も0を目指す。令和9年度には長船に新たなこども園を開設予定である。